様式2

都市再生整備計画　事後評価シート

吹田操車場跡地地区

（都市再構築戦略事業）

令和２年３月

大阪府吹田市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	大阪府	市町村名	吹田市	地区名	吹田操車場跡地地区（都市再構築戦略事業）		面積	95.3ha
交付期間	平成26年度～平成30年度	事後評価実施時期	令和元年度	交付対象事業費	3,140（百万円）	国費率	0.5	

1）事業の実施状況			事業名		
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路（区画街路1号線・2号線）、公園（1号街区公園）、地域生活基盤施設（緑のふれあい交流創生ゾーン多目的広場、1号緑地、岸辺駅北公共通路、耐震性貯水槽）、中心拠点誘導施設（市立吹田市民病院 【間接補助】）		
		提案事業	なし		
			事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
	当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設（岸辺駅北人工地盤、電子情報盤）	同様の機能を別途整備したため、都市再生整備計画事業からは削除	同様の機能は別途整備したため、影響なし
		提案事業	なし	—	—
	新たに追加した事業	基幹事業	道路（（都）岸部中千里丘線（吹田市域分））、地域生活基盤施設（緑のふれあい交流創生ゾーン健康増進広場）	安心、快適な歩行者空間や市民自ら予防医療を実践できる場の確保のため、追加	（都）岸部中千里丘線（吹田市域分）：指標1,2に関連するが、数値目標は据え置く、健康増進広場：指標5を追加
		提案事業	なし	—	—
	交付期間の変更	当　初	平成26年度～平成30年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	—
		変　更	なし		

	指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値 モニタリング	数値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	市民病院の通院所要時間の満足度	%	25%	H22	30%	H30	—	—	—	あり		—	令和4年7月
											なし	●		
	指標2	歩行者にとっての道路の安全性満足度	%	10%	H22	21%	H30	—	19%	△	あり		区画街路や広場の園路等の整備により、満足度は従前値と比較して向上しているが、事後評価時点では、（都）岸部中千里丘線や岸辺駅北公共通路が未供用であったため、効果が十分に発揮できておらず、目標未達成となった。	令和4年7月
											なし	●		
	指標3	木々や草花などの緑の量によるまちへの愛着度	%	12%	H22	17%	H30	—	15%	△	あり		街区公園や多目的広場、緑地等の整備により、従前値と比較して向上しているが、愛着度は緑に日常的にふれあう中で一定期間をかけて醸成されるものであること、樹木などが憩いの場等として効果を発揮するためには整備してから一定の成長期間を要すること等から、効果が十分に発揮できておらず、目標未達成となった。	—
											なし	●		
	指標4	地震や水害などに対する防災の満足度	%	14%	H22	17%	H30	—	22%	○	あり	—	緑のふれあい交流創生ゾーン多目的広場における、防災機能を持ったベンチやあずまや、耐震性貯水槽の設置などによる地域の防災機能の強化が、防災に対する満足度の向上につながり、目標達成となった。	—
											なし	—		
	指標5	この一年間あまり運動・スポーツをしなかった人の割合	%	51%	H22	48%	H30	—	53%	×	あり		本事業により緑のふれあい交流創生ゾーン健康増進広場など、日常的にスポーツや運動ができる身近な空間は創出されたが、定期的にスポーツ・運動を実施する人の増加にはつながっておらず、目標未達成となった。	—
											なし	●		

	指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	評価値	目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況	その他の数値指標1	公園や緑地の整備状況に対する満足度	%	27%	H22			―	41%			街区公園や多目的広場・健康増進広場、緑地の整備によりまとまった緑が確保されたことで、片山・岸部地域における公園や緑地の整備状況に対する満足度が向上した。	―
	その他の数値指標2	公園を身近なものとして感じている人の割合	%	38%	H22			―	46%			緑のふれあい交流創生ゾーン健康増進広場など健康づくりの場として日常的に利用できる空間の創出により、片山・岸部地域において公園を身近なものと感じている割合が向上した。	―

4）定性的な効果発現状況	・緑のふれあい交流創生ゾーン健康増進広場は、健康遊具等が設置され、気軽に体を動かせる場所として地域住民等に利用されている。

		実施内容	実施状況		今後の対応方針等
5）実施過程の評価	モニタリング	―	都市再生整備計画に記載し、実施できた	―	―
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施できた	―	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	―	
	住民参加プロセス	北大阪健康医療都市「健都」健康・医療のまちづくりシンポジウムの開催	都市再生整備計画に記載し、実施できた		引き続き、市民向け事業の開催などを通じて、地域住民等の理解・協力を得ながらまちづくりを進めていく。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施できた	●	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	持続的なまちづくり体制の構築	健都レールサイド公園（1号緑地、1号街区公園、多目的広場、健康増進広場）等の指定管理者による、健康への気づきや多世代交流の場としての利用者の増加やにぎわいの創出のためのイベント等の実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた		指定管理者によるイベント等の実施を通じて、市民の健康に対する意識を醸成する。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施できた	●	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式２－２　地区の概要

吹田操車場跡地地区（大阪府吹田市）　都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標			従前値		目標値		評価値	
「医療機関をコア施設とする産学官民が連携する医療イノベーション拠点」の創出を目指したまちづくり	市民病院の通院所要時間の満足度	%	25%	H22	30%	H30	―	―
〇医療イノベーション拠点を支えるインフラの創出	歩行者にとっての道路の安全性満足度	%	18%	H22	21%	H30	19%	H30
〇安心、快適な歩行者空間の確保とまちの賑わいを創出	木々や草花などの緑の量によるまちへの愛着度	%	12%	H22	17%	H30	15%	H30
〇緑が豊かで人々が憩い、やすらぐ空間と防災支援機能の創出	地震や水害などに対する防災の満足度	%	14%	H22	17%	H30	22%	H30
	この一年間あまり運動・スポーツをしなかった人の割合	%	51%	H22	48%	H30	53%	H30
	【その他】公園や緑地の整備状況に対する満足度	%	27%	H22	―	―	41%	H30
	【その他】公園を身近なものとして感じている人の割合	%	38%	H22	―	―	46%	H30

まちの課題の変化	達成されたこと ・市立吹田市民病院、国立循環器病研究センターの移転建替え及び、（都）岸部中千里丘線等の周辺道路の整備ができた。 ・市立吹田市民病院や国立循環器病研究センターとJR岸辺駅をつなぐ公共通路の整備により、公共交通機関等によるこれら医療機関等への安全で快適なアクセスが可能となった。 ・健都レールサイド公園（1号緑地、1号街区公園、緑のふれあい交流創生ゾーン多目的広場・健康増進広場）の整備により、緑豊かな憩いの空間が確保できた。また、様々なイベントが開催されるなど地域の賑わい創出の場としても活用されている。 ・緑のふれあい交流創生ゾーン多目的広場における、防災機能を持ったベンチやあずまや、耐震性貯水槽の設置などにより地域の防災機能が強化できた。 残された未解決の課題 ・整備した空間を快適で安心安全な空間として維持し、地域住民等に日常的に活用してもらうことで、地域住民等のまちへの愛着の醸成や健康の維持・増進につなげていく必要がある。
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	・効果を持続させるために行う方策：健都レールサイド公園における防災関連イベントなどの開催により、地域防災に対する理解や満足度の更なる向上を図る。 ・改善策：健都レールサイド公園におけるイベント等の開催や図書館などの多様な機能を持った拠点施設（健都ライブラリー）の整備により、地域住民等がより身近に利用できる空間を創出していく。

まちづくり交付金　事後評価シート
（添付書類）

（1）成果の評価

添付様式1－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
添付様式1－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（完成状況）
添付様式2－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
添付様式2－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）により計測される効果発現の計測
添付様式2－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

（2）実施過程の評価

添付様式3－①　モニタリングの実施状況
添付様式3－②　住民参加プロセスの実施状況
添付様式3－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

（3）効果発現要因の整理

添付様式4－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制
添付様式4－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
添付様式4－③　数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制
添付様式5－②　まちの課題の変化
添付様式5－③　今後のまちづくり方策
添付様式5－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見
添付様式5－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
添付様式6　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
添付様式6－参考記述　今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　　事後評価原案の公表

（6）まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8　　まちづくり交付金評価委員会の審議

（7）有識者からの意見聴取

添付様式9　　有識者からの意見聴取

（1）成果の評価

添付様式１－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	―	―	―
B. 目標を定量化する指標	●		―	指標5「この一年間あまり運動・スポーツをしなかった人の割合」を追加	都市再生整備計画の第1回変更において、基幹事業として追加した緑のふれあい交流創生ゾーン健康増進広場の整備事業の効果を評価するための指標として追加
C. 目標値		●	―	―	―
D. その他（　　　　　　　　　）					

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（完成状況）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画 事業費	当初計画 事業内容	最終変更計画 事業費	最終変更計画 事業内容	当初計画からの 変更の概要 ※1 （事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況 完成	事後評価時の完成状況 完成見込み
道路	区画街路1号線・2号線	50.6	区画街路の整備 （1号線 L=148m、W=4.7m） （2号線 L=332m、W=8.7m）	78.1	区画街路の整備 （1号線 L=148m、W=4.7m） （2号線 L=332m、W=8.7m）	事業費の変更	影響なし	●	
道路	（都）岸部中千里丘線（吹田市域分）	—	—	1,146.8	都市計画道路の整備 （吹田市部分L=389m（全体L=550m）、W=18.5m）	事業の追加	指標1「市民病院の通院所要時間の満足度」や指標2「歩行者にとっての道路の安全性満足度」に関連するが、数値目標は据え置く	●	
公園	1号街区公園	45.5	街区公園（園路、あずまや、植栽等）の整備 （A=1,530㎡）	24.4	街区公園（園路、あずまや、植栽等）の整備 （A=1,500㎡）	事業規模及び事業費の変更	指標3「木々や草花などの緑の量によるまちへの愛着度」等に関連するが、数値目標は据え置く	●	
地域生活基盤施設	緑のふれあい交流創生ゾーン多目的広場	179.7	多目的広場（防災パーゴラ、備蓄倉庫、園路、植栽等）の整備（A=8,500㎡）	108.4	多目的広場（防災パーゴラ、備蓄倉庫、園路、植栽等）の整備（A=8,500㎡）	事業費の変更	影響なし	●	
地域生活基盤施設	緑のふれあい交流創生ゾーン健康増進広場	—	—	298.9	健康増進広場（健康遊具、園路、植栽等）の整備（A=11,500㎡）	事業の追加	当事業の効果を評価するため、指標5「この一年間あまり運動・スポーツをしなかった人の割合」を追加	●	
地域生活基盤施設	1号緑地	114.0	緑地（植栽等）の整備 （A=4,000㎡）	64.5	緑地（植栽等）の整備 （A=2,300㎡）	事業規模及び事業費の変更	指標3「木々や草花などの緑の量によるまちへの愛着度」等に関連するが、数値目標は据え置く	●	
地域生活基盤施設	岸辺駅北公共通路	637.3	公共交通路の整備 （L=130m、W=6m）	1,334.6	公共交通路の整備 （広場機能を兼ね備える） （L=140m、W=4m）	事業内容・規模、事業費の変更	都市再生整備計画の第2回変更において削除した、岸辺駅北人工地盤（基幹事業）が担う広場機能を兼ね備える形での、事業内容・規模及びそれに伴う事業費の変更であるため、影響なし	●	
地域生活基盤施設	岸辺駅北人工地盤	1,534.0	人工地盤の整備 （A=900㎡）	—	—	事業の削除	都市再生整備計画の第2回変更において削除したが、基幹事業で実施する岸辺駅北公共通路の整備において、同様の機能（広場機能）を整備したため、影響なし	—	—
地域生活基盤施設	電子情報盤	13.6	電子情報盤の設置 （2基）	—	—	事業の削除	同様の機能を別途整備したため影響なし	—	—
地域生活基盤施設	耐震性貯水槽	100.0	耐震性貯水槽の整備 （100t級　1基）	85.0	耐震性貯水槽の整備 （100t級　1基）	事業費の変更	影響なし	●	
中心拠点誘導施設	市立吹田市民病院 【間接補助】	14,464	市立吹田市民病院 （18,000㎡、RC8階建て、431床） の整備に対する間接補助	14,464	市立吹田市民病院 （18,000㎡、RC8階建て、431床） の整備に対する間接補助	変更なし	—	●	

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

提案事業

事業	細項目	当初計画 事業費	当初計画 事業内容	最終変更計画 事業費	最終変更計画 事業内容	当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況 完成	事後評価時の完成状況 完成見込み
―	―	―	―	―	―	―	―	―	―

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

（参考）関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費 当初計画	事業費 最終変更計画	事業期間 当初計画	事業期間 最終変更計画	進捗状況及び所見	備考
吹田操車場跡地土地区画整理事業		吹田操車場跡地地区	11,400.0	11,400	平成21年度～平成27年度	平成21年度～平成27年度	平成28年3月換地処分	―
医療クラスター支援施設（公共通路）		吹田操車場跡地地区	193.0	―	平成26年度～平成28年度	―	―	基幹事業の関連性を再精査の上、関連事業より除外
街路事業		（都）豊中岸部線	900.0	―	平成25年度～平成29年度	―	―	基幹事業の関連性を再精査の上、関連事業より除外
街路事業		（都）岸部中千里丘線	4,514.3	2,310.0	平成26年度～平成27年度	平成27年度～平成29年度	平成31年2月竣工、供用開始	―
道路事業		市道千里丘44号線	217.4	―	平成26年度～平成29年度	―	―	基幹事業の関連性を再精査の上、関連事業より除外
公園事業		山田川公園	66.0	―	平成26年度～平成27年度	―	―	基幹事業の関連性を再精査の上、関連事業より除外
効果促進事業（歩道改修）		南千里岸部線	33.8	―	平成27年度～平成28年度	―	―	基幹事業の関連性を再精査の上、関連事業より除外
効果促進事業（地下道改修）		市道岸部中内本町線他1線	15.6	―	平成26年度～平成28年度	―	―	基幹事業の関連性を再精査の上、関連事業より除外
効果促進事業（まちのサイン計画）		吹田操車場跡地地区	5.2	―	平成27年度	―	―	基幹事業の関連性を再精査の上、関連事業より除外
効果促進事業（社会実験）		岸辺駅北人工地盤	5.2	―	平成29年度	―	―	事業の削除
効果促進事業（事後評価）		吹田操車場跡地地区	3,1	―	平成30年度	―	―	事業の削除
国立循環器病研究センター建替え事業		国立循環器病研究センター	―	57,132.0	―	平成27年度～令和元年度	平成31年3月竣工、令和元年7月1日供用開始	―
街路事業（関連社会資本整備事業）		（都）岸部中千里丘線（摂津市域分）	―	83.2	―	平成30年度	平成31年2月竣工、供用開始	―

添付様式２－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指　標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	目標値（ウ）	目標年度	数値（エ）				目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無 あり	なし
指標1	市民病院の通院所要時間の満足度	%	吹田市市民意識調査の市民病院の通院所要時間の満足度に関する設問で、市全域において「非常に満足」又は「満足」と回答した人の割合を算出する。	—	—	25%	H22	30%	H30	モニタリング		—	—	モニタリング	—		●
										事後評価	確定	—	—	事後評価	—		
											見込み	—					
指標2	歩行者にとっての道路の安全性満足度	%	吹田市市民意識調査の歩行者にとっての道路の安全性満足度に関する設問で、片山・岸部地域において「満足している」又は「どちらかといえば満足している」と回答した人の割合を算出する。	—	—	18%	H22	21%	H30	モニタリング		—	—	モニタリング	—		●
										事後評価	確定		19%	事後評価	△		
											見込み	●					
指標3	木々や草花などの緑の量によるまちへの愛着度	%	吹田市市民意識調査の木々や草花などの緑の量によるまちへの愛着度に関する設問で、片山・岸部地域において「そう思う」と回答した人の割合を算出する。	10%	H18	12%	H22	17%	H30	モニタリング		—	—	モニタリング	—		●
										事後評価	確定	●	15%	事後評価	△		
											見込み						
指標4	地震や水害などに対する防災の満足度	%	吹田市市民意識調査の地震や水害などに対する防災の満足度に関する設問で、片山・岸部地域において「満足している」又は「どちらかといえば満足している」と回答した人の割合を算出する。	15%	H18	14%	H22	17%	H30	モニタリング		—	—	モニタリング	—	—	—
										事後評価	確定	●	22%	事後評価	○		
											見込み						
指標5	この一年間あまり運動・スポーツをしなかった人の割合	%	吹田市市民意識調査のこの1年間における運動・スポーツの量に関する設問で、片山・岸部地域において「あまり運動・スポーツはしない」と回答した人の割合を算出する。	58%	H18	51%	H22	48%	H30	モニタリング		—	—	モニタリング	—		●
										事後評価	確定	●	53%	事後評価	×		
											見込み						

※（参考）計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね5年程度前）の値のことをいう。

指　標	目標達成度○△×の理由（達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む）	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
指標1	—	意識調査実施時点（平成30年7月）において、本指標に関連する事業のうち市立吹田市民病院（新病院）及び都市計画道路岸部中千里丘線が未供用であり、整備効果を計測できないため、次回意識調査（令和4年度予定）において計測する（フォローアップ調査を実施）。
指標2	区画街路や広場の園路等の整備により満足度は1ポイント向上しているが、目標達成には至っていない。都市計画道路岸部中千里丘線及び岸辺駅北公共通路が未供用であり、整備効果が十分に発現しなかったと考えられる。	—
指標3	街区公園や多目的広場・健康増進広場、緑地の整備によりまとまった緑が確保され、指標値は3ポイント向上しているが、目標達成には至っていない。愛着度は整備された緑に日常的にふれる中で一定期間をかけて醸成されるものであること、樹木などが憩いの場等として効果を発揮するためには整備してから一定の成長期間を要すること等から、整備から間もない現時点では整備効果が十分に発現しなかったと考えられる。	—
指標4	緑のふれあい交流創生ゾーン多目的広場における、防災機能を持ったベンチやあずまや、耐震性貯水槽の設置などによる地域の防災機能の強化が、防災に対する満足度の向上につながり、目標達成となった。	—
指標5	本事業により緑のふれあい交流創生ゾーン健康増進広場など、日常的にスポーツや運動ができる身近な空間は創出されたが、定期的にスポーツ・運動を実施する人の増加にはつながっておらず、目標未達成となった。	—

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。
※2　目標達成度の記入方法
○ :評価値が目標値を上回った場合
△ :評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
× :評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式２－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測

指　標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	数値（ウ）				本指標を取り上げる理由	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
その他の数値指標1	公園や緑地の整備状況に対する満足度	％	吹田市市民意識調査の公園や緑地の整備状況に対する満足度に関する設問で、片山・岸部地域において「そう思う」と回答した人の割合を算出する。	―	―	27%		モニタリング	―		―	指標3「緑の量によるまちへの愛着」は、整備された緑に日常的にふれる中で醸成されるものであり、一定の期間を要すると考えられる。そのため、指標3の補足指標として、片山・岸部地域の居住者の公園や緑地の整備状況に対する満足度を把握する。	―
								事後評価	確定	●	41%		
									見込み				
その他の数値指標2	公園を身近なものとして感じている人の割合	％	吹田市市民意識調査の公園を身近なものとして感じているという問いに対して、片山・岸部地域で「そう思う」と回答した人の割合を算出する。	―	―	38%		モニタリング	―		―	緑のふれあい交流創生ゾーン健康増進広場の健康づくりの場の確保に向けた整備効果を測るものとして、指標5「この一年間あまり運動・スポーツをしなかった人の割合」を設定している。指標5の補足指標として、健康づくりの場として日常的に利用できる空間となっているかを測るため、公園を身近なものとして感じている人の割合を把握する。	―
								事後評価	確定	●	46%		
									見込み				

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。

添付様式２－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・緑のふれあい交流創生ゾーン健康増進広場は、健康遊具等が設置され、気軽に体を動かせる場所として地域住民等に利用されている。

（2）実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式３－①　モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した	―	―	―
	予定はなかったが実施した	―		
	予定したが実施できなかった（理由　）	―		

添付様式３－②　住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
北大阪健康医療都市「健都」健康・医療のまちづくりシンポジウムの開催	予定どおり実施した		【開催頻度】計4回（うち、交付期間中3回） 【開催時期】（第1回：平成25年11月）、第2回：平成27年2月、第3回：平成29年3月、第4回：平成30年3月 【開催結果】吹田操車場跡地地区における事業の進捗状況の報告や、同地区における国立循環器病研究センターを核とした健康・医療まちづくりの展開に関する講演やパネルディスカッションを通じて、地域住民等の本事業に対する理解が深まった。	引き続き、市民向け事業の開催などを通じて、地域住民等の理解・協力を得ながらまちづくりを進めていく。
	予定はなかったが実施した	●		
	予定したが実施できなかった（理由　）			
―	予定どおり実施した		―	―
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった（理由　）			

添付様式３－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容又は、実際に実施した内容	構築状況		実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
			ⅰ．体制構築に向けた取組内容	ⅱ．まちづくり組織名：組織の概要	
健都レールサイド公園（1号緑地、1号街区公園、多目的広場、健康増進広場）等の指定管理者による、健康への気づきや多世代交流の場としての利用者の増加やにぎわいの創出のためのイベント等の実施	予定どおり実施した		市において健都レールサイド公園及び健都ライブラリー（令和2年11月供用開始予定）の指定管理者を選定し、令和2年度から、施設管理やイベント等の実施を委託する。	指定管理者（健都パークライフ創造パートナーズ）	指定管理者による、健康への気づきや多世代交流の場としての利用者の増加やにぎわいの創出のためのイベント等の実施を通じて、市民の健康に対する意識を醸成する。
	予定はなかったが実施した	●			
	予定したが実施できなかった（理由　）				

（3）効果発現要因の整理

添付様式４－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画（吹田操車場跡地地区）の事後評価に係る庁内検討会議	関係室課の室長又は課長級職員（地域医療推進室、北大阪健康医療都市推進室、計画調整室、道路室、公園みどり室、地域整備推進室、水循環室、水道部総務室）	第1回　令和元年11月7日 第2回　令和2年2月13日	計画調整室（本都市再生整備計画所管課）

添付様式４－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

		指標の種別	指標4		その他の数値指標1		その他の数値指標2			
		指　標　名	地震や水害などに対する防災の満足度		公園や緑地の整備状況に対する満足度		公園を身近なものとして感じている人の割合			
種別	事業名・箇所名		指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路	区画街路1号線・2号線	―	緑のふれあい交流創生ゾーン多目的広場における、防災機能を持ったベンチやあずまや、耐震性貯水槽の設置などによる地域の防災機能の強化が、防災に対する満足度の向上につながり、目標達成となった。	―	街区公園や多目的広場・健康増進広場、緑地の整備によりまとまった緑が確保されたことで、片山・岸部地域における公園や緑地の整備状況に対する満足度は、従前の27%から41%と向上した。	―	緑のふれあい交流創生ゾーン健康増進広場など健康づくりの場として日常的に利用できる空間の創出により、片山・岸部地域において公園を身近なものと感じている割合が従前の38%から46%と向上した。		
	道路	（都）岸部中千里丘線（吹田市域分）	―		―		―			
	公園	1号街区公園	―		◎		○			
	地域生活基盤施設	緑のふれあい交流創生ゾーン多目的広場	◎		◎		○			
	地域生活基盤施設	緑のふれあい交流創生ゾーン健康増進広場	―		◎		◎			
	地域生活基盤施設	1号緑地	―		◎		○			
	地域生活基盤施設	岸辺駅北公共通路	―		―		―			
	地域生活基盤施設	耐震性貯水槽	◎		―		―			
	中心拠点誘導施設	市立吹田市民病院　【間接補助】	―		―		―			
関連事業	吹田操車場跡地土地区画整理事業（吹田操車場跡地地区）		―		―		―			
	街路事業（（都）岸部中千里丘線）		―		―		―			
	国立循環器病研究センター建替え事業		―		―		―			
	街路事業（関連社会資本整備事業）（（都）岸部中千里丘線（摂津市域分））		―		―		―			

	指標4	その他の数値指標1	その他の数値指標2	
今後の活用	多目的広場等における防災関連イベントなどの開催により、地域における防災に対する理解や満足度の更なる向上を図っていく。	今後も、公園や緑地に対する満足度を維持向上させるため、適切な維持管理の実施やイベント開催等による魅力向上を図っていく。	健康増進広場や多目的広場などにおけるイベント開催等を通じて、地域住民にとって更に身近なものとしていく。	

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

添付様式４－③　数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

		指標の種別	指標2			指標3			指標5					
		指　標　名	歩行者にとっての道路の安全性満足度			木々や草花などの緑の量によるまちへの愛着度			この一年間あまり運動・スポーツをしなかった人の割合					
種別	事業名・箇所名		目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路	区画街路1号線・2号線	△	区画街路や広場の園路等の整備により、満足度は従前値と比較して向上しているが、事後評価時点では(都)岸部中千里丘線や岸辺駅北公共通路が未供用であったため、効果が十分に発揮できておらず、目標未達成となった。	Ⅲ	—	市域全体では緑の量によるまちへの愛着度が低下する中(H22:17%→H30:16%)、街区公園や多目的広場・健康増進広場、緑地の整備によりまとまった緑が確保され、片山・岸部地域における愛着度は向上している。しかし、愛着度は整備された緑に日常的にふれる中で一定期間をかけて醸成されるものであること、樹木などが憩いの場等として効果を発揮するためには整備してから一定の成長期間を要すること等から、整備から間もない現時点では効果を十分に発揮しきれておらず、目標未達成となった。	Ⅳ	—	本事業により緑のふれあい交流創生ゾーン健康増進広場など、日常的にスポーツや運動ができる身近な空間が創出され、健康づくり講座等のイベントも開催されているが、定期的にスポーツ・運動を実施する人の増加にはつながっておらず、目標未達成となった。定期的にスポーツや運動を実施する人が減っている要因としては、都市化・生活の利便化等の生活環境の変化や余暇時間の過ごし方の多様化などが考えられる。	Ⅲ			
	道路	(都)岸部中千里丘線(吹田市域分)	××			—			—					
	公園	1号街区公園	△			△			△					
	地域生活基盤施設	緑のふれあい交流創生ゾーン多目的広場	△			△			△					
	地域生活基盤施設	緑のふれあい交流創生ゾーン健康増進広場	△			△			△					
	地域生活基盤施設	1号緑地	△			△			△					
	地域生活基盤施設	岸辺駅北公共通路	××			—			—					
	地域生活基盤施設	耐震性貯水槽	—			—			—					
	中心拠点誘導施設	市立吹田市民病院 【間接補助】	—			—			—					
関連事業	吹田操車場跡地土地区画整理事業(吹田操車場跡地地区)		△			—			—					
	街路事業((都)岸部中千里丘線)		××			—			—					
	国立循環器病研究センター建替え事業		—			—			—					
	街路事業(関連社会資本整備事業)((都)岸部中千里丘線(摂津市域分))		××			—			—					

	指標2	指標3	指標5	
改善の方針 (記入は必須)	事後評価時点は未供用であった(都)岸部中千里丘線や岸辺駅北公共通路が供用開始し、片山・岸部地域における歩行者の安全性満足度は事後評価時よりも改善されていると考えられる。	多目的広場等の日常的な利用やイベントの開催を通じて、地域住民が本事業で整備された緑等にふれる中で緑の量によるまちへの愛着を醸成していく。	健康やスポーツ等に関するイベント開催などを通じて、健康増進広場や多目的広場等をより地域住民が日常的に気軽に体を動かせる場としていく。	

※目標未達成への影響度
××:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△:数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
－:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ:内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ:外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ:外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ:内的な要因で、予見が不可能な要因。

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式５－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画（吹田操車場跡地地区）の事後評価に係る庁内検討会議	関係室課の室長又は課長級職員（地域医療推進室、北大阪健康医療都市推進室、計画調整室、道路室、公園みどり室、地域整備推進室、水循環室、水道部総務室）	第1回　令和元年11月7日 第2回　令和2年2月13日	計画調整室（本都市再生整備計画所管課）

添付様式５－②　まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと（課題の改善状況）	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
本地区への2つの医療機関の移転建替えとあわせた緊急搬送路の機能を併せ持つ都市計画道路等の早期整備	・市立吹田市民病院、国立循環器病研究センターの移転建替え及び、都市計画道路岸部中千里丘線等の周辺道路の整備ができた。	―	―
JR岸辺駅と移転建替えする2つの医療機関とをつなぐ、歩行者が安全で快適に移動できる歩行者空間の確保、公共交通機関の利用促進、景観や環境に配慮したまちの実現	・市立吹田市民病院や国立循環器病研究センターとJR岸辺駅をつなぐ公共通路の整備により、公共交通機関等によるこれら医療機関等への安全で快適なアクセスが可能となった。	―	
土地区画整理事業の進捗にあわせた、地域住民等が憩える空間の形成	・健都レールサイド公園（1号緑地、1号街区公園、緑のふれあい交流創生ゾーン多目的広場・健康増進広場）の整備により、緑豊かな憩いの空間が確保できた。 ・また、様々なイベントが開催されるなど地域の賑わい創出の場としても活用されている。	・整備した空間を快適で安心安全な空間として維持し、地域住民等に日常的に活用してもらうことで、地域住民等のまちへの愛着の醸成や健康の維持・増進につなげていく必要がある。	
土地区画整理事業の進捗にあわせた、安全で安心して居住できる都市空間の形成	・緑のふれあい交流創生ゾーン多目的広場における、防災機能を持ったベンチやあずまや、耐震性貯水槽の設置などにより地域の防災機能が強化できた。	―	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式５－③　今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	・地域における防災に対する理解や満足度の更なる向上	・健都レールサイド公園における防災関連イベントなどの開催により、地域における防災に対する理解や満足度の更なる向上を図る。	・健都レールサイド公園及び健都ライブラリーの指定管理者や行政などによる防災関連イベントの開催　など

B欄 改　善　策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	・地域住民のまちへの愛着の醸成や健康の維持・向上	・健都レールサイド公園におけるイベント等の開催や図書館などの多様な機能を持った拠点施設（健都ライブラリー）の整備により、地域住民等がより身近に利用できる空間を創出していく。 ・健都レールサイド公園を快適で安心安全な空間として維持し、地域住民等が憩い、安らげる空間とする。	・健都ライブラリーの整備 ・地元や健都レールサイド公園及び健都ライブラリーの指定管理者、医療機関、行政など多様な主体によるイベントの開催、地域との連携の機会の創出　など

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。　　*なるべく具体的に記入してください。*

■様式５－③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。（チェック欄）

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題（都市再生整備計画）を再確認した。
●	事業の実施過程の評価（添付様式3）を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用（添付様式4-②）を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる効果の持続・活用（添付様式4-③）を再確認した。
●	残された課題や新たな課題（添付様式5-②）を再確認した。

添付様式５－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見

本事業の実施により、各課題について一定水準で解決できた。今後は、地域の魅力の更なる向上に向け、地域住民等の意見などを踏まえながら、整備した施設の適切な活用等を進めていく必要がある。

添付様式５－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式２－①、２－②に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、１年以内の達成見込みは添付様式２－①、２－②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、１年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指　標		単位	従前値	年度	目標値	年度	評価値（確定）	評価値（見込み）	評価値	目標達成度	1年以内の達成見込みの有無（あり）	1年以内の達成見込みの有無（なし）	フォローアップ計画：予定時期	フォローアップ計画：計測方法	フォローアップ計画：その他特記事項
指標1	市民病院の通院所要時間の満足度	%	25%	H22	30%	H30	—	—	—	—		●	令和4年7月	令和4年度吹田市市民意識調査の市民病院の通院所要時間の満足度に関する設問で、市全域において「非常に満足」又は「満足」と回答した人の割合を算出する。	従前値計測時は、病院利用者のみを対象としていたが、以降、意識調査の回答者全員を対象とする形に変更
指標2	歩行者にとっての道路の安全性満足度	%	18%	H22	21%	H30		●	19%	△		●	令和4年7月	令和4年度吹田市市民意識調査の歩行者にとっての道路の安全性満足度に関する設問で、片山・岸部地域において「満足している」又は「どちらかといえば満足している」と回答した人の割合を算出する。	—
指標3	木々や草花などの緑の量によるまちへの愛着度	%	12%	H22	17%	H30	●		15%	△		●	—	—	—
指標4	地震や水害などに対する防災の満足度	%	14%	H22	17%	H30	●		22%	○	—	—	—	—	—
指標5	この一年間あまり運動・スポーツをしなかった人の割合	%	51%	H22	48%	H30	●		53%	×		●	—	—	—
その他の数値指標1	公園や緑地の整備状況に対する満足度	%	27%	H22			●		41%				—	—	—
その他の数値指標2	公園を身近なものとして感じている人の割合	%	38%	H22			●		46%				—	—	—

添付様式6　まちづくりの成果の他地区への活用

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・定期的に実施している吹田市市民意識調査の結果を指標として活用したことで、指標値の経年変化の把握や本事業計画地域を含む地域（片山・岸部地域）と市全域との比較などができた。	・定期的に実施している統計調査やアンケート調査の結果を用いることで、経年変化の把握などが可能となり、分析の際に有効となる。ただし、統計調査やアンケート調査の実施時期と交付期間・計画に掲げる事業の完成時期との関係に留意が必要である。
	うまく いかなかった点	・吹田市市民意識調査の実施時期と本事業の完成時期の関係から、指標１や指標2は指標に関連する事業が交付期間内には完了したものの、評価時には未供用だったため、フォローアップ調査を行う必要性が生じた。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	―	・事業効果がより適切に評価できる指標の設定が望ましい。
	うまく いかなかった点	・指標２～５は、いずれも片山・岸部地域という本事業計画区域外を含む広域な範囲に対する評価指標であったため、本事業の効果のみを適切に評価しにくかった。 ・指標3「木々や草花などの緑の量によるまちへの愛着度」は、本事業により整備された緑に日常的にふれる中で、一定期間をかけて醸成されるものである。そのため、計画期間（交付期間）内では整備効果が指標に反映しきれなかったおそれがある。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・市民向け事業（シンポジウム等）の開催により、地域住民等の本事業に対する理解が得られた。	・まちづくりを進めていく上で、地域住民等への情報公開や意見収集・反映を積極的に図る。
	うまく いかなかった点	―	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・都市再生整備計画の標準的な進め方に則り、PDCAサイクルによる事業の実施・評価を行った。	―
	うまく いかなかった点	―	
その他	うまくいった点	―	―
	うまく いかなかった点	―	

添付様式６－参考記述　今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

なし

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和2年1月6日～2月6日	令和2年1月6日～2月6日	担当課へのFAX、電子メール、郵送、直接提出	北大阪健康医療都市推進室（本都市再生整備計画所管課）
広報掲載・回覧・個別配布	「市報すいた」に市のホームページ等で原案を公表している旨を記載	令和2年1月1日発刊 市報すいた1月号	令和2年1月6日～2月6日		
説明会・ワークショップ	―	―	―		
その他	―	―	―		

住民の意見	提出された御意見はありませんでした。

（6）まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8　まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	北詰　恵一　関西大学都市環境工学部　教授 田中　晃代　近畿大学社会総合学部　准教授	第1回　令和元年11月14日 第2回　令和2年3月23日 （新型コロナウイルス感染症対策のため第2回は中止）	北大阪健康医療都市推進室（本都市再生整備計画所管課）	事後評価会議設置要領	独自に設置
その他の委員	岸部地区連合自治会　会長				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・事後評価については、方法書に則って適切に実施されたと認められた。
	成果の評価	・複数の指標で未達成という結果であったが、それぞれに対して相応の理由が確認された。一部の指標はフォローアップ調査の実施を計画しているが、このまま自然と目標達成するものとは限らないことから、委員から出た意見を踏まえ、様々な取組みを積極的に進めていくことを前提として、妥当と認められた。
	実施過程の評価	・都市再生整備計画事業の実施過程における住民参加プロセスの実施状況等について、適切に評価されていると認められた。
	効果発現要因の整理	・指標5の改善方針として、本事業で整備した緑のふれあい交流創生ゾーン健康増進広場等は、図書館等の利用のついでに少し体を動かしてもらう等、他の目的との組み合わせで利用してもらえる場としていくという視点も必要であると意見があった。 →添付様式４－③「数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理」の指標5に係る「改善の方針」にて対応した。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表手続き等について、妥当であると認められた。
	その他	・緑のふれあい交流創生ゾーン健康増進広場は、健康遊具等が設置され、気軽に体を動かせる場所として地域住民等に利用されているという意見があった。 →添付様式2−参考記述「定量的に表現できない定性的な効果発現状況」にて対応した。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価手続き等について、妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・事業が完了したことをもって指標が自然と達成しているとは限らないことから、今後、様々な取組みを積極的に進めていく視点を持ち、まちづくり方策の検討を進める必要があると意見があった。
	フォローアップ	・フォローアップ調査の実施を計画する指標1及び指標2については、フォローアップ調査時（令和4年度吹田市市民意識調査時を予定）に自然と目標達成しているとは限らないことから、今後、様々な取組みを積極的に進めていく必要があると意見があった。
	その他	・本事業で整備した緑のふれあい交流創生ゾーン健康増進広場等では、指定管理者によるイベントや講座等において、行動変容を促す仕掛けづくりを継続的に実施することにより、図書館や公園を訪れた方が、各施設の枠を超えて自然と健康づくりに取り組んでもらえるような場づくりを積極的に進めていく必要があると意見があった。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策について、妥当であると認められた。
その他		－

※1　審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

（7）有識者からの意見聴取

添付様式9　有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理（添付様式4）、今後のまちづくり方策の検討（添付様式5）、まちづくり交付金評価委員会の審議（添付様式8）以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
実施していない	—	—

有識者の意見	—